

## 国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)

### 平成 27 年度事業実施計画 (案)

平成 27 年は「国連生物多様性の 10 年」の中間年であることから、これまでの取組について中間評価を行うとともに、2020 年に向けて、各セクター・委員間の連携、広報の強化を図ることを重点に、生物多様性の主流化に向けた取組を一層推進。

#### < 重点事業 >

##### ・ 中間評価とロードマップ作成

平成 26 年度に行った各委員へのヒアリング、2 月 20 日に開催したフォーラムを踏まえて中間評価をとりまとめるとともに、主流化の取組をさらに加速するためにロードマップを作成し、11 月に滋賀で開催する生物多様性全国ミーティングにおいて報告。

##### ・ 「MY 行動宣言」の積極的な呼びかけ

環境省や自治体が開催するイベントやグリーンウェイブでの配布、民間企業への働きかけ、日本動物園水族館協会との連携、ウェブサイトによる宣言等により、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

##### ・ 「生物多様性の本箱」100 館プロジェクト

子ども向け推薦図書「生物多様性の本箱」について、平成 27 年度中に 100 館達成を目指して、さらなる普及啓発。(平成 27 年 5 月 27 日現在、全国 69 の図書館・施設等において展示・企画展等が実施)

##### ・ 生物多様性.com の開設

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトを設置。個人に向け、生物多様性に関する情報や、委員の取組商品 (プロダクツ)・サービス・取り組みを紹介。委員からの積極的な情報提供を期待。

##### ・ 国連生物多様性の 10 年中間年記念フォーラム

中間評価を踏まえて、2020 年に向けた、各セクターの取組のさらなる推進を図るため、各セクターが一堂に会し、事例紹介を行うフォーラムを開催。

##### ・ 平成 27 年開催生物多様性関連イベント・行事 一斉報道発表

5/22(金)「国際生物多様性の日」周辺イベント・行事等を取りまとめて報道発表。グリーンウェイブについても登録状況を報道発表。

新宿御苑みどりフェスタ (4 月) みどりの感謝祭 (5 月) エコライフフェア (6 月) において、MY 行動宣言の配布等を行い、生物多様性の主流化を呼びかけ。認定連携事業の団体等の協力を得た。

## < 個別事業 >

新規事業・取組 Iki・Tomo 推進事業 【 】 " 推進事務局
---

### 1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

#### (1) MY 行動宣言 5つのアクション【CEPA ジャパン・IUCN-J】

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」を、主流化の取組みの初動となるツールとして活用を広く呼びかける

#### 100万人のMY 行動宣言

- ・日本動物園水族館協会の協力による宣言シートの配布
- ・ウェブサイトでのMY 行動宣言
- ・シートの裏面に企業等の生物多様性に関する取組を掲載するなど、企業等にタイアップを呼びかけ **UNDB-J タイアップ事業**

#### (2) 生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

国民一人ひとりが5つのアクションを理解し実践するため、全国各地から事例を収集してウェブサイトに掲載することと、各地の活動を応援することを目的に、企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の5つのアクションに即した活動を募集し表彰する「生物多様性アクション大賞 2015」を昨年度に引き続き、UNDB-J 主催事業として実施。応募数 300 (H26 実績: 124) を目指して、エコライフフェア等を活用して広報

#### (3) 平成 27 年開催生物多様性関連イベント・行事 一斉報道発表

各セクター・委員において、5/22(金)「国際生物多様性の日」周辺および年内に開催するイベント・行事について広く呼びかけ、取りまとめの上、報道発表

### 2. セクター間の情報交換

#### (1) 国際生物多様性の 10 年中間年記念フォーラム

生物多様性の保全に関わる全国の様々なセクターが一堂に会して、国連生物多様性の 10 年の中間年という節目から 2020 年に向けた、これまでの取組の中間評価を踏まえての各セクターの取組のさらなる推進を図るために実施(2月、東京都内)。認定連携事業の事例紹介とテーマ別のワークショップを開催。過去の認定された事業への認定証の授与式をあわせて実施。

#### (2) 生物多様性全国ミーティング

- ・「第 5 回生物多様性全国ミーティング」として開催(11月、滋賀県)
- ・「生物多様性自治体ネットワーク定期総会」、「生物多様性エクスカージョン」等開催自治体の滋賀県と連携  
中間評価について報告

### 3. 主流化に向けた活動プログラム

#### (1) 「生物多様性の本箱」の普及啓発

【環境パートナーシップ会議・日本自然保護協会】

##### ・「生物多様性の本箱」100館プロジェクト

UNDB-Jが推薦する子供向け図書「生物多様性の本箱」については、平成27年度中の100館達成を目指して、さらなる普及啓発を図るための広報、様々なイベントへの出展等を実施（平成27年5月27日現在、全国69の図書館・施設等において展示・企画展等が実施）

##### ・本箱寄贈プロジェクト

「生物多様性の本箱」を東北の小・中学校、図書館、普及啓発施設等に寄贈し、生物多様性に支えられる東北復興を支援するため、企業等に寄付協賛を呼びかけ【日本自然保護協会等】 寄付協賛募集事業

#### (2) 連携事業の認定【IUCN-J】

- ・UNDB-Jが推奨する連携事業を9月（第7弾）と3月（第8弾）に認定
- ・認定団体については、全国ミーティングにおいて表彰・取組を紹介
- ・ウェブサイトでの紹介、リーフレットを活用した各セクターへの働きかけ

#### (3) グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】 寄付協賛募集事業

- ・グリーンウェイブを強化するため、企業等にも協力を呼びかけつつ、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会等の関係団体と連携して事業を実施
- ・参加団体に参加証を発行するほか、全国一斉キャンペーン用のポスターを作成し、リーフレットとともに各セクターに働きかけ
- ・「みどりの感謝祭」において、林野庁、国土緑化推進機構の協力を得てグリーンウェイブ呼びかけを実施

#### (4) 生物多様性イベント支援ツール

生物多様性地域セミナーを休止する代替策として、生物多様性自治体ネットワーク構成自治体向けに「地球いきもの応援団」の紹介や生物多様性キャラクター応援団「タヨちゃんサトくん」の着ぐるみ、「生物多様性の本箱」等の貸出、各種広報ツールの配布を実施。中間年に併せて、各自治体における生物多様性関連主催イベントについて開催を呼びかけ

#### (5) 生物多様性出前講座【日本自然保護協会・IUCN-J】

- ・生物多様性の普及啓発を目的に、講師を派遣する座学タイプの出前講座を全国3か所で実施予定

### 4. 情報発信

#### (1) 生物多様性マガジン「Iki-Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を年3回発行

- ・企業等の生物多様性に関する取組の掲載や、既存の小冊子等とのコラボレーショ

ンなど、企業等にタイアップや増刷して各企業の店舗等への配置協力について呼びかけ UNDB-J タイアップ事業

( 2 ) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの活用。個人に向け、生物多様性に関する情報や、委員団体、連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体等による生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けたさまざまな商品（プロダクツ）・サービス・取り組みを紹介。（H27.5.22に一般公開）

( 3 ) facebook「Iki-Tomo パートナース」

- ・ Iki-Tomo パートナースへの新たな参画を関係者へ呼びかけ
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組、生物多様性.com の更新情報等を広く発信
- ・ UNDB-J 委員への中間評価ヒアリング結果、「地球いきもの応援団」へのインタビュー等の掲載

( 4 ) UNDB-J ウェブサイト

- ・ UNDB-J の活動状況等を発信

( 5 ) 広報ツール

- ・ リーフレットやブックマーク等を活用して各セクターに働きかけ

( 6 ) 特別事業

- ・ みどりフェスタ 2015、エコライフフェア 2015 出展企画  
各種イベントにおいて UNDB-J の取組を発信する展示について企画・作成委員および関連団体からの出展等の協力を依頼。
- ・ エコプロダクツ 2015 出展企画  
上記エコライフフェアにて作成した展示について運用

5 . 主流化推進チームによる広報・主流化

( 1 ) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

- ・ 地球いきもの応援団への新たな加入を呼びかけ(現在、26 名)
- ・ 地球いきもの応援団の中から、国民一人ひとりが生物多様性の大切さを理解して行動に移せるように先導する「生物多様性リーダー」を、全国ミーティング等の機会を活用して任命
- ・ 生物多様性マガジン「Iki-Tomo」において、地球いきもの応援団のメンバーから生物多様性に関する取組やメッセージを紹介

( 2 ) 生物多様性キャラクター応援団

- ・ キャラクター応援団への新たな入団を呼びかけ
- ・ セミナー等の機会を活用し、UNDB-J キャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地のキャラクターが今後協力して普及啓発に取り組む「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施

100 体を超えるキャラクターの活用策を検討（緑の goo やグリーンウェイブとの連携）

## 6. 委員会等の運営

- ・委員会（6月）、幹事会（2月）、運営部会（7月、9月、2月）を開催
- ・寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会（6月、2月）と連携  
国連生物多様性の 10 年の中間年に際し、UNDB-J の活動の中間評価を実施

## 【参考】

- (1) UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について
  - ・UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置
  - ・事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施
- (2) 寄付協賛募集事業について
  - ・事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施
  - ・例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を東北に寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施を検討
- (3) UNDB-J タイアップ事業について
  - ・企業等と UNDB-J がタイアップし、生物多様性の普及啓発ツール・アイテムを作成
  - ・例えば、「Iki・Tomo」の発行については、企業等の生物多様性に関する取組を掲載する企画についても実施を検討（企業等は制作費等を負担、UNDB-J は生物多様性に関するコンテンツを提供するなど）